

(五枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

□ 次の文章を読んで、問一～問五に答えなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(五枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(安藤 宏『私』をつくる 近代小説の試み)による。

問一 ①～⑥の語について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読みを書きなさい。

問二 この文章中の(a)～(c)のいずれかの位置に、次に示す文章が段落として入ります。どこに入れるのが最も適切ですか。その記号を書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

問三 1 書いた文章を少し醒めた目で読み返し、「うである」がやたらに乱発されているのに気がついて、「何を偉そうに……」という違和感を覚え、気恥ずかしさにいたたまれない思いをした経験とありますが、「である」の乱発に違和感を覚え、気恥ずかしくなるのはなぜですか。その理由を四十字以内で書きなさい。

問四 2 それは何を指しますか。文章中から三十字以内で抜き出して書きなさい。

受験番号	氏名
------	----

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

問五 三人称的な事実の提示と一人称的な判断とのせめぎ合いとありますが、次の文章中にはどのようなせめぎ合いが見られますか。せめぎ合いが見られる表現を、次の文章中から一つ取り上げ、具体的に説明しなさい。

あの、神門を這入って大極殿を正面に見、西の廻廊から神苑に第一步を踏み入れた所にある数株の紅枝垂、——海外にまでその美を謳われていると云う名木の桜が、今年はどうな風であろうか、もうおそくはないであろうかと気を揉みながら、毎年廻廊の門をくぐる迄はあやしく胸をときめかすのであるが、今年も同じような思いで門をくぐった彼女は、忽ち夕空にひろがっている紅の雲を仰ぎ見ると、皆が一様に、

「あ——」

と、感歎の声を放った。此の一瞬こそ、二日間の行事の頂点であり、此の一瞬の喜びこそ、去年の春が暮れて以来一年に互って待ちつづけていたものなのである。彼女たちは、ああ、これでよかった、これで今年も此の花の満開に行き合わせたと思つて、何がなしにほっとすると同時に、来年の春も亦此の花を見られますようにと願うのであるが、幸子一人は、来年自分が再び此花の下に立つ頃には、恐らく雪子はもう嫁に行っているのではあるまいか、花の盛りは廻って来るけれども、雪子の盛りは今年が最後ではあるまいかと思ひ、自分としては淋しいけれども、雪子のためには何卒(なんど)そうであつてくれますようにと願う。正直のところ、彼女は去年の春も、去々年の春も、此の花の下に立った時にそう云う感慨に浸つたのであり、そのつど、もう今度こそは此の妹と行を共にする最後であると思つたのに、今年も亦、こうして雪子を此の花の蔭に眺めていられることが不思議でならず、何となく雪子が傷ましくて、まともにその顔を見るに堪えない気がするのであつた。

(谷崎潤一郎 「細雪」による。)

二 平成二十年三月告示の中学校学習指導要領 国語 各学年の目標及び内容〔第2学年〕 2 内容 A 話すこと・聞くこと

(1) ウ には、「目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。」と示されています。第二学年の生徒に、目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すことの指導を行う際、問題解決的な学習を行わせることとします。どのような言語活動を設定しますか。また、生徒が、自ら課題意識をもつよう、単元の導入においては、どのような指導の工夫を行いますか。次の表の生徒の学習の状況を基にして、設定する言語活動及び単元の導入における指導の工夫を具体的に書きなさい。

生徒の学習の状況
生徒は、第一学年時に、中学校に入学する六年生に向けて、中学校の魅力や資料を提示しながら紹介するという言語活動を通して、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話す学習を行っている。

受験番号	
氏名	

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

三 次の文章を読んで、問一～問五に答えなさい。

白河院の御時、天下に殺生を禁制せられたりければ、国土に魚鳥のたぐひ、絶えにけり。そのころ、貧しき僧^aの、老いたる母を持ちたるあり。その母、魚^bなれば、ものを食はざりけり。たまたま求め得たる食物も食はずして、やや日数を経るまゝに、老いの力、いよいよ弱りて、今はたのむかたなく見えけり。僧かなしみて、尋ね求むれども、えがたし。思ひあまりて、「つやつや魚とる術も知らねども、みづから桂川の辺にのぞみて、衣にたまだすきして、魚をうかがひて、小さきはやを一つ二つとりて、持ちたりけり。

禁制の重きころなれば、官人、これを搦め取りて、院の御所へゐて参りぬ。まづ子細を問はる。「殺生の禁断、世にもるところなし。²いかでかその由を知らざらむ。いはむや法師の形として、その衣を着ながら、この犯をなすこと、ひとかたならぬ咎、のがるるところなし」と仰せ含めらるるに、僧、涙を流して、申すやう、「天下にこの禁制重きこと、みな承知するところなり。この制なくとも、法師の身にて、この振舞あるべからず。ただし、われ、老いたる母を持ちて、^d候ふが、ただわれ一人のほか、頼みたる人なし。よはひだけ、身衰へて、朝夕の食たやすからず。われ、また貧家にして財なければ、³心のごとくにとぶらふにあたはず。なかにも魚なければ、ものを食はず。この一天の制によつて、魚鳥のたぐひなきあひだ、身の力、すでに弱りたり。⁴これを助けむがために、心のおきどころなきまゝに、いまだ魚取る術も知らねども、思ひのあまりに、河のはたにのぞめり。罪を行はるること、案のうちに侍り。遁るべからず」と申す。

「ただし、このとるところの魚、今は放つとも生きがたし。身のいとまを許りがたくは、これを母のもとへ遣はされて、いま一度、あざやかなる味をすすめて、心安くうけ。給ふを聞きて、いかにもまかりならむ」と申す。

⁵これを聞く人、涙を流す。院、聞こしめして、養老の志浅からぬをあらはれみ感ぜさせ給ひて、さまざまのものども、馬車に積みて、たまはせて、許されにけり。

(「十訓抄」による。)

問一 a の、b なけれをそれぞれ文法的に説明しなさい。

問二 c 申す、d 候ふ、e 給ふはそれぞれ誰に対する敬意を表していますか。次のア～オの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 白河院 イ 僧 ウ 母 エ 官人 オ 読み手

問三 1 つやつや魚とる術も知らねども、²いかでかその由を知らざらむ、³心のごとくにとぶらふにあたはずを、それぞれ口語訳しなさい。

問四 ⁴これは何を指しますか。文章中から抜き出して書きなさい。

問五 ⁵これを聞く人、涙を流すとありますが、涙を流したのはなぜですか。その理由を八十字以内で書きなさい。

四 平成二十年三月告示の中学校学習指導要領 国語 には、教科の目標が示されています。どのようなことが示されていますか。簡潔に書きなさい。

受験番号

氏名

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

〔五〕 次の文章を読んで、問一～問六に答えなさい。(設問の関係で返り点・送り仮名を一部省略している。)

辛 毘 字ハ佐治、潁川陽翟ノ人ナリ。文帝踐レミ阼ヲ、遷ル侍中ニ。帝欲ス徙シ冀州ノ士ノ家十万户ヲ実_中テント河南上ニ。時ニ連リニ蝗アリ、民饑ユ。群司以テ為ニス不可ト。〔A〕帝ノ意甚ダ盛シナリ。毘与ニ朝臣俱ニ求レム見エンコトヲ。帝知ニリ其ノ欲スルヲ諫メント、作レシ色ヲ以テ見ル之ヲ。皆莫シ敢ヘテ言フコト。毘曰ハク、「陛下不レ以ニテセ臣ガ不肖ヲ、置キ之ヲ左_a右_bニ、廁_まニユ之ヲ謀議之官ニ。安クシ得レシ不_cルヲ与レ臣議セ。臣ノ所₃言フ非_レズ私ニ、乃チ社稷之慮也。」帝不_cレ答ヘ、起チテ入レル内ニ。毘随ヒテ而引_cク其ノ裾ヲ。帝遂_c奮_cヒテ衣ヲ不_cレ還ラ。良久シクシテ乃チ出デ、曰ハク、「卿持_cスルコト我ヲ、何ソ太₄急ナル邪。」毘曰ハク、「今徙_{うつ}サバ、已ニ失_cニハン民心ヲ。又無_cケン以テ食フコト。」帝遂_c徙_cス其ノ半_dバラ。嘗_d從_cヒ帝ニ射_cレル雉ヲ。帝曰ハク、「射_cレルハ雉ヲ樂シキ哉。」毘曰ハク、「於_cニテハ陛下_cニ甚_dダ樂シ。群下ハ甚_dダ苦シム。」帝黙然タリ。後遂_c乃チ為_cニ之ガ稀_cナリ出ツルコト。

(「蒙求」による。)

(注) 辛 毘 Ⅱ 三国時代の人物。

潁川陽翟 Ⅱ 地名。

文帝 Ⅱ 魏の王。

冀州 Ⅱ 地名。

問一 〔A〕にあてはまる最も適切な語を、次のア～オの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 猶 イ 則 ウ 唯 エ 故 オ 而

問二 a 左右、社稷の本文中における意味を、それぞれ書きなさい。

問三 c 遂、嘗の本文中における読み方を、送り仮名も含めてそれぞれ現代仮名遣いで書きなさい。

問四 1 毘与ニ朝臣俱ニ求レム見エンコトヲを、書き下し文にしなさい。

問五 2 帝知ニリ其ノ欲スルヲ諫メント、作レシ色ヲ以テ見ル之ヲ、何ソ太₄急ナル邪を、それぞれ口語訳しなさい。問六 3 毘随ヒテ而引_cク其ノ裾_cとありますが、辛 毘は、なぜこのように行動したのですか。その理由を六十字以内で書きなさい。

